

展示構成

プロローグ ここからはじまり

第1部 二人の出会い マンガ誕生

第2部 爆発するマンガ 時代への挑戦

第3部 “ちから”の本質対決

第4部 未来へ生き続ける“ちから”
現代作家によるオマージュ作品集

関連事業

展示解説

手塚プロダクションと石森プロの担当者による展示解説です。

日時：2月15日(土)午後2時～(約60分)

場所：大阪歴史博物館 6階 特別展示室

参加費：無料(ただし、入場には特別展観覧券が必要)

参加方法：直接会場へお越しください。

音声ガイド (貸出料500円)

アトム(声:津村まことさん)と
島村ジョー(声:井上和彦さん)が
マンガ大学講師(声:恒松あゆみさん)
とともに展覧会をナビゲート



©手塚プロダクション
手塚治虫「リボンの騎士」直筆原稿
連載時期:「なかよし」1963年1月号～1966年10月号



©手塚プロダクション
手塚治虫「鉄腕アトム」直筆原稿
連載時期:「少年」1952年4月号～1968年3月号他



©石森プロ
石森章太郎「龍神沼」直筆原稿
1961年「少女クラブ」
夏休み増刊号掲載



©石森プロ
石森章太郎「サイボーグ009」直筆原稿
連載時期:「週刊少年マガジン」1966年27号30号～1967年13号他

◆学芸員のおススメコレクション◆

大阪文化財研究所

高松藩大坂蔵屋敷の南紀男山焼

南紀男山焼(なんきおとこやまやき)は、文政10年(1827)に崎山利兵衛が和歌山県有田郡広川町に開いた陶磁器窯です。窯の操業は約50年と短いものでしたが、紀州藩に庇護され、主に染付磁器(そめつけじき)を生産し、製品は海路で大坂や江戸方面にも出荷されていました。

写真の輪花染付皿(りんかそめつけざら)は高松藩蔵屋敷跡(北区中之島)で見つかりました。4点とも高台(こうだい)内に「南紀男山」銘があります。染付けで鋸歯文(きよしもん)や波文、花唐草文が描かれ、右側2点には焼継ぎで補修された跡があります。銘はすべての製品に書かれるわけではなく、上等品にだけ記されます。この皿は紀州藩から高松藩への贈答品だったのかもしれませんが。(大阪文化財研究所 主任学芸員 松本 百合子)

※今回紹介した南紀男山焼は、アネックスパル法円坂1階で3月31日(月)まで展示中です。
アネックスパル法円坂へのアクセスは、地下鉄「森ノ宮」「谷町四丁目」、JR「森ノ宮」、お問い合わせは大阪文化財研究所まで



南紀男山焼 輪花染付皿 江戸時代後期
大阪文化財研究所保管